

3 出土した遺物



第 15 号住居跡から出土した須恵器の坏です。内面の黒い × 字のような痕跡は、火燂痕といえます。土器を焼成する際に、土器同士が融着しないように置いた藁材の痕跡と考えられています。



第 16 号井戸跡から出土した瓦質土器片です。在地産とみられます。13～14 世紀頃の所産と考えられます。



第 24 号溝跡から出土した青磁碗片と常滑産の甕片です。13 世紀代の所産とみられます。青磁碗片には劃花文がみられます。

コラム 周辺の遺跡を巡ろう



氷川八幡神社
宮前遺跡より徒歩約 15 分

氷川八幡神社は明治六年、箕田郷内の氷川社と八幡社が合祀されたものです。八幡社の由来には藤原純友の乱を鎮めた源仕が、氷川社の由来には源経基（または源仕）がかかわっていると伝えられています。



箕田 9 号墳
宮前遺跡より徒歩約 10 分

箕田古墳群は 5 世紀後半から 7 世紀前半頃にかけて築造されました。箕田 9 号墳（宮登古墳）は現存径約 25m の円墳です。主体部は角閃石安山岩を使用した胴張り形の横穴式石室です。石室の一部とみられる緑泥片岩を確認することができます。



- 1 宮前遺跡 2 平右衛門遺跡 3 箕田古墳群 (1. 1 号墳 2. 2 号墳 3. 3 号墳 4. 4 号墳 5. 5 号墳 6. 6 号墳 7. 7 号墳 8. 8 号墳 9. 9 号墳) 4 九右衛門遺跡
5 富士山遺跡 6 富士山南遺跡 7 宮前本田北遺跡 8 宮前本田遺跡
9 登戸新田北遺跡 10 登戸新田遺跡 11 登戸本村遺跡 12 根際遺跡 13 城山遺跡
14 伝源経基館跡 15 前通遺跡 16 二本木遺跡 17 神明遺跡 18 宮地 3 丁目遺跡
19 栄町遺跡 20 鴻巣御殿 21 本田二ノ割遺跡 22 糠田古墳群
- 「国土地理院地図」と「埼玉県埋蔵文化財情報公開ページ」より作成

鴻巣市 宮前遺跡 (第 8 次)



ごあいさつ

このたび、令和 8 年度 1 回目の遺跡見学会として、鴻巣市宮前遺跡の見学会を開催いたします。

宮前遺跡は、一般国道 17 号（上尾道路Ⅱ期）建設事業に伴い令和 3 年（2021）より調査を開始しました。これまでの 7 次に及ぶ調査では、旧石器時代から中・近世にいたる時代の遺構や遺物が見つかっています。

今年度の第 8 次調査においても、奈良時代から平安時代にかけての竪穴住居跡や中世の井戸跡、溝跡、土壇などの遺構が多数発見されています。

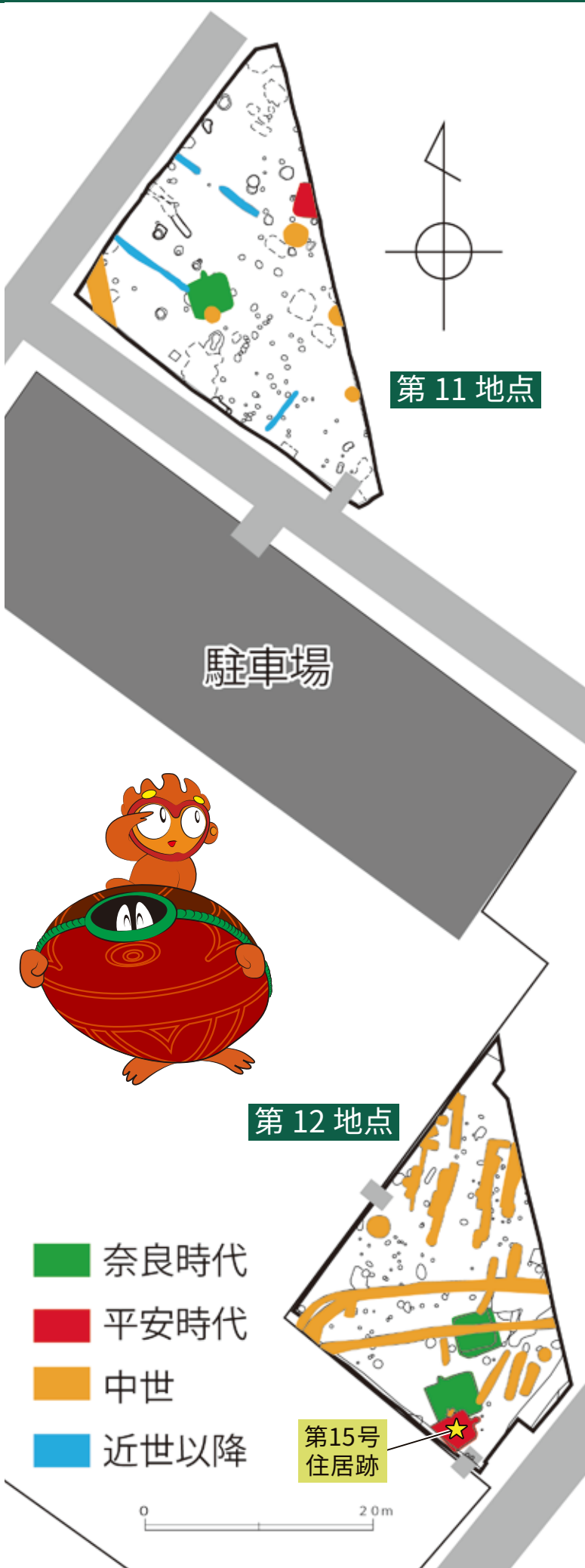
このたびの見学会では、県民のみなさまに発掘調査が進んでいる現場のようすを直接ご覧いただき、地域の歴史へのご理解を深めていただければ幸いです。

令和 8 年 6 月 27 日（土）

主催 公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

共催 国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所 埼玉県教育委員会 鴻巣市教育委員会

1 宮前遺跡の概要



宮前遺跡は大宮台地北西端、南流する荒川の左岸に立地しています。標高は15～18mほどで、昨年度までの調査では台地上から低地にかけて、各時代の遺構・遺物が発見されています。

旧石器時代では、台地上から後期旧石器時代の礫群^{れきぐん}が発見され、同時期のナイフ形石器も出土しています。

縄文時代では低地部から草創期の爪形文土器^{つめがたもん}、木組遺構^{へんそせいひん}、編組製品が、台地上からは竪穴住居跡^{ふくろ}が、台地縁辺からは袋状土壌^{じょうとこう}がそれぞれ発見されています。しかし、今回の第11、12地点では縄文時代の遺構は全く見つかりません。遺物はわずかに土器片が出土しています。

古墳～平安時代についても、台地上から竪穴住居跡が検出されました。住居跡どうしの重複があることから、長期間継続した集落と想定されます。

中世では、溝跡や土壌・井戸跡が多数発見されました。これらは居住施設とその外部を区画するためのものと推測されます。溝跡は方向を違って多数見つかり、複数の区画が存在したと思われます。特に大きい溝跡（大溝）からは中国産白磁・青磁、古瀬戸天目、常滑産甕・鉢、在地産内耳鍋・かわらけ^{ないじなべ}が出土しています。

2 今回の調査で検出された遺構



たてあなじゅうきょあと

竪穴住居跡（奈良時代～平安時代）

竪穴住居は地面を掘りくぼめて床面とし、柱を立て、屋根を葺いた建物です。第12地点では3軒検出されました。第15号住居跡は床面から検出面まで約50cmあり、宮前遺跡の中では非常に深い竪穴住居跡です。北東方向にカマドがありました。

いどあと

井戸跡（中世）

径110～220cm、深さ2m以上の井戸跡が複数検出されています。出土遺物から、中世の井戸跡と考えられます。

遺跡周辺は大宮台地上に位置し、水が溜まりにくいいため、水源を求めて深い井戸をいくつも掘っていたことがわかります。



みぞあと

溝跡（中世）

区画施設と考えられる溝跡が複数検出されました。青磁片や常滑産の甕片などが出土しており、廃絶時期は13世紀後半～14世紀頃と推測されます。宮前遺跡では過去の調査でも、このような溝跡が多数検出されています。



どこうぐん

土壌群（中世）

複数の土壌が、真北よりやや東に傾いて、方向を揃えて検出されました。土壌は長方形のものと楕円形の2種類にわけられます。溝跡を壊して構築されており、覆土の状況から埋戻していることがわかりました。いくつかは黒色土層が薄く堆積していました。

